

ジャパン株式インカム（3ヵ月決算型）

追加型投信／国内／株式

第50期末（2018年7月6日）	
基準価額	12,019円
純資産総額	223百万円
第49期～第50期	
騰落率 (上昇率・下落率)	-8.9%
分配金合計	100円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

第49期（決算日：2018年4月6日）

第50期（決算日：2018年7月6日）

作成対象期間

（2018年1月10日～2018年7月6日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、わが国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式を実質的な主要投資対象とし、配当利回りに着目し、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な値上がり益の獲得による信託財産の成長をめざして運用することを目的としています。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、下記の手順で閲覧できます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社まで、お問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧およびダウンロード方法>

- ①右記ホームページにアクセス
- ②「基準価額一覧」もしくは「ファンド検索」から当ファンドを検索し、選択
- ③ファンドの詳細ページで運用報告書（全体版）を選択



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

0120-151034
（受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

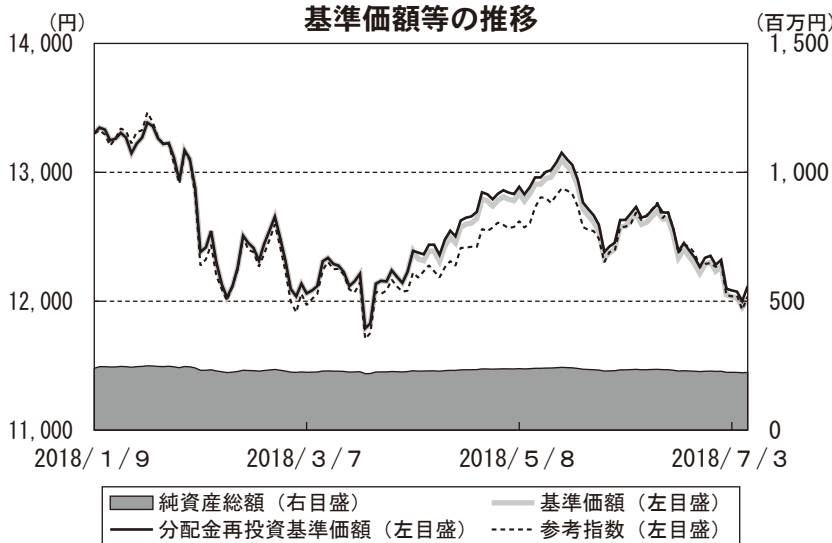
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

当作成期中の基準価額等の推移について（第49期～第50期：2018/1/10～2018/7/6）

基準価額の動き

基準価額は当作成期首に比べ8.9%（分配金再投資ベース）下落しました。



・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の主な変動要因

下落要因

国内株式市場が下落傾向となるなか、三菱ケミカルホールディングスなど化学に属する銘柄や本田技研工業など輸送用機器に属する銘柄といった輸出関連・景気敏感株が景気の先行き不安などを背景として軟調となったほか、りそなホールディングスなど銀行業に属する銘柄が収益環境の厳しさから嫌気されたことなど、こうした銘柄を中心に株価が下落したことが基準価額の下落要因となりました。

最近5年間の基準価額等の推移について

（2013年7月8日～2018年7月6日）



・分配金再投資基準価額、参考指数は、2013年7月8日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2013/7/8 期初	2014/7/7 決算日	2015/7/6 決算日	2016/7/6 決算日	2017/7/6 決算日	2018/7/6 決算日
基準価額（円）	8,354	8,989	11,475	8,916	12,414	12,019
期間分配金合計（税込み）（円）	—	160	160	200	200	1,100
分配金再投資基準価額騰落率	—	9.6%	29.7%	-20.7%	41.7%	5.0%
参考指数騰落率	—	10.8%	29.5%	-22.9%	33.3%	6.5%
純資産総額（百万円）	567	293	304	229	236	223

・ファンド年間騰落率は、参考指数年間騰落率と比較するため、収益分配金（税込み）を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

参考指数は、TOPIX500配当込み指数です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

投資環境について

（第49期～第50期：2018/1/10～2018/7/6）

◎国内株式市況

- ・ 当作成期の国内株式市場は、2018年1月下旬以降に米国の物価上昇率の加速懸念などを背景として米国金利が急上昇すると、米国株式市場の相対的な割高感が意識されたことなどからリスク資産回避の動きが加速し、市場の予想変動率が急上昇するなか世界的に株式市場は調整し、国内株式市場も下値模索の展開となりました。その後、市場の予想変動率が低下すると国内株式市場は下値固めの展開となったものの、トランプ米大統領の保護貿易主義や米中の貿易摩擦激化が懸念されたほか、為替の円高・米ドル安進行による外需関連企業を中心とした業績の先行き不安などが嫌気され、上値の重い展開となりました。
- ・ 4月に入ると、米中の貿易摩擦への過度な懸念の後退や中東および北朝鮮を巡る地政学リスクの緩和、日米金利差の拡大に伴う為替の円安・米ドル高進行などが好感されたことから国内株式市場は戻りを試す展開となりました。また、5月中旬にかけては、好業績見通しを発表した銘柄が牽引するなか、為替の円安・米ドル高進行が好感されたことなども国内株式市場の上昇要因となりました。
- ・ 5月下旬以降、米朝首脳会談の開催延期やイタリアの政局混迷などを契機とした南欧の財政不安の高まり、米国長期金利の低下から円高・米ドル安が進行したことなどから国内株式市場は下落に転じました。外部環境の改善などから持ち直す場面もあったものの、年内の米国利上げペースが加速するとの見方から下落した米国株式市場に連れ安となったほか、米中貿易摩擦や米イラン関係の悪化懸念、原油高による企業のコスト増加などが嫌気され、当作成期末にかけて国内株式市場は軟調となりました。

当該投資信託のポートフォリオについて

i 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

<ジャパン株式インカム（3ヵ月決算型）>

- ・ ジャパン株式インカム マザーファンド受益証券の組入比率をおおむね99%以上に保ち、実質的な運用はマザーファンドで行いました。

<ジャパン株式インカム マザーファンド>

基準価額は当作成期首に比べ8.4%の下落となりました。

- ・ わが国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式を主要投資対象とし、配当利回りに着目し、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な値上がり益の獲得による信託財産の成長をめざしました。
- ・ 当作成期も引き続き、連続増配銘柄*の動向や予想配当利回りの水準、各企業の配当に関する考え方や継続性、業績の方向性などの観点から組入銘柄を精査しました。
*連続増配銘柄とは、主として一定期間の修正1株当たりの配当金（年額。株式分割および株式併合などを考慮します。）が増加し、または減少しなかった銘柄とします。

- ・前記の結果、当作成期は以下の通りポートフォリオの調整を実施しました。
- ・2018年2月は、配当に対する利益水準が低下したパーク24を全株売却しました。
- ・3月は、ポートフォリオの予想配当利回り水準などの改善を目的として、ポートフォリオのリバランスを実施しました。
 具体的には、沢井製薬、昭和シェル石油などを新規に買い付け、SBIホールディングス、大東建託などを買増した一方、大塚ホールディングス、JSRなどを全株売却し、アイカ工業、アステラス製薬などを一部売却しました。
- ・4月もまた、ポートフォリオの予想配当利回り水準などの改善を目的として、ポートフォリオのリバランスを実施しました。
 具体的には、アステラス製薬、アイカ工業などを買増した一方、大阪瓦斯、日立化成を全株売却し、SBIホールディングス、ジェイテクトなどを一部売却しました。
- ・5月は、配当に対する利益水準が低下したローソン、ヒロセ電機を全株売却しました。
- ・7月は、ポートフォリオの予想配当利回り水準などの改善を目的として、ポートフォリオのリバランスを実施しました。
 具体的には、NTN、小松製作所などを新規に買い付け、アイカ工業、ヤマハ発動機などを買増した一方、カシオ計算機、昭和シェル石油などを全株売却し、三井住友トラスト・ホールディングス、SBIホールディングスなどを一部売却しました。
- ・以上の結果、当作成期では、資源価格の上昇が追い風となった双日や、昭和シェル石油など石油・石炭製品に属する銘柄のほか、株式市場が軟調となるなか比較的業績が安定しているアステラス製薬など医薬品に属する銘柄やKDDIなど情報・通信業に属する銘柄といったいわゆるディフェンシブ銘柄の株価上昇が基準価額にプラスに寄与したものの、景気の先行きに不透明感が強まるなか三菱ケミカルホールディングスなど化学に属する銘柄や、本田技研工業など輸送用機器に属する銘柄といった輸出関連・景気敏感株のほか、収益環境の厳しさが嫌気されたりそなホールディングスなど銀行業に属する銘柄を中心とした株価下落が基準価額にマイナスに作用し、当作成期では基準価額は下落しました。

（ご参考）

株式組入上位5業種

作成期首（2018年1月9日）

	業種	比率
1	化学	10.6%
2	輸送用機器	10.1%
3	銀行業	10.0%
4	医薬品	9.9%
5	情報・通信業	6.4%



作成期末（2018年7月6日）

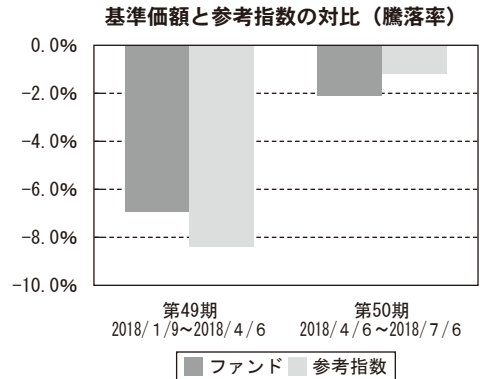
	業種	比率
1	化学	12.0%
2	輸送用機器	10.4%
3	銀行業	10.3%
4	卸売業	7.5%
5	機械	6.2%

・比率はマザーファンドの株式の評価総額に対する各業種の割合です。

当該投資信託のベンチマークとの差異について（第49期～第50期：2018/1/10～2018/7/6）

i ベンチマークまたは参考指数と比較することで、期間中の運用内容を評価することができます。

- ・当ファンドの運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンド（ベビーファンド）の基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ・参考指数はTOPIX500配当込み指数です。



・ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

分配金について

i 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準・市況動向等を勘案して分配金額を決定します。基準価額水準や分配対象収益額を勘案し、委託会社が決定する額を付加して分配を行う場合があります。この結果、次表の通りとさせていただきました。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第49期	第50期
	2018年1月10日～2018年4月6日	2018年4月7日～2018年7月6日
当期分配金	50	50
（対基準価額比率）	0.404%	0.414%
当期の収益	50	—
当期の収益以外	—	50
翌期繰越分配対象額	5,026	4,976

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

＜ジャパン株式インカム（3ヵ月決算型）＞

◎今後の運用方針

- ・ジャパン株式インカム マザーファンド受益証券を高位に組み入れ、マザーファンドを通じて運用を行っていく方針です。

＜ジャパン株式インカム マザーファンド＞

◎運用環境の見通し

- ・2017年以降、好景気と低金利が並存する「適温相場」となったことが株価上昇を支え、業績拡大期待の高い銘柄などが株式市場を牽引する展開となったものの、2018年2月の米国債金利の急上昇を端緒とした世界的な株式市場の調整により「適温相場」の継続が不安視されつつあるものとみています。
- ・こうしたもと、6月調査の日銀短観からは、大企業製造業の業況判断が2017年12月調査以降低下傾向にあることや経常利益見通しの軟化が確認されており、今後は企業の業績拡大余地を慎重に見極める相場展開となりつつあると考えています。
- ・このような運用環境の見通しのもとでは、配当利回りなどの割安性指標をもとに相対的価値をはかる投資手法が有効となるものとみています。

◎今後の運用方針

- ・引き続き、わが国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式を主要投資対象とし、これらの株式を高位に保つ方針です。
- ・連続増配銘柄の動向や予想配当利回りの水準、各企業の配当に関する考え方、業績の方向性などに留意し、計量的なアプローチを主体に運用していく方針です。

お知らせ

i 受益者のみなさまに知っていただきたいファンドに関するお知らせを掲載しています。

◎約款変更

- ・該当事項はありません。

◎その他

- ・本資料内における旧シティ債券インデックスは、ブランド変更に伴い、FTSE債券インデックスの名称に変更しています。
- ・2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。

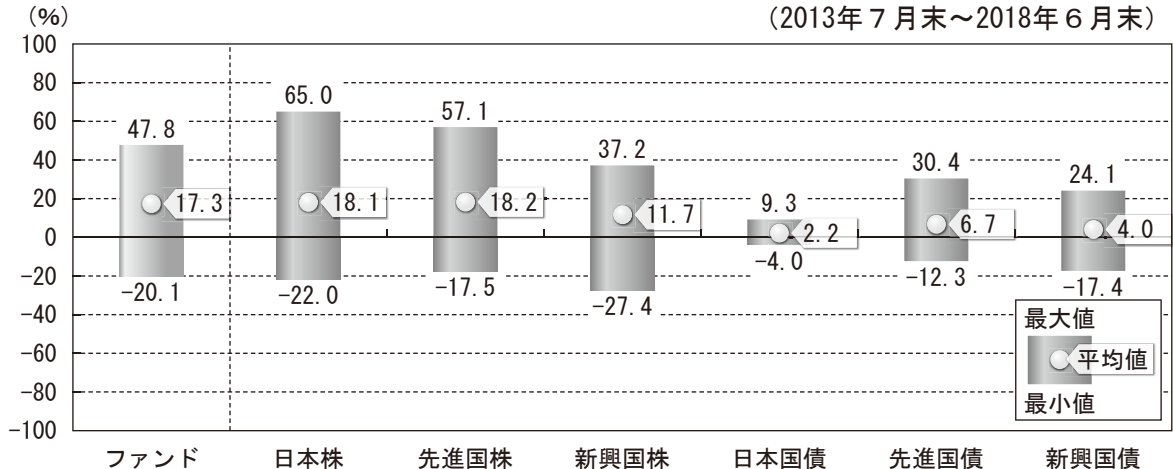
* 本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限（2006年3月23日設定）	
運用方針	ファミリーファンド方式により、信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	ジャパン株式インカム マザーファンド受益証券
	ジャパン株式インカムマザーファンド	わが国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みません。）株式
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式を実質的な主要投資対象とし、配当利回りに着目し、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な値上がり益の獲得による信託財産の成長を目指します。 ・連続増配銘柄に着目した株式投資を行います。 <p>* 連続増配銘柄とは、主として一定期間の修正1株当たりの配当金（年額。株式分割および株式併合等を考慮します。）が増加し、または減少しなかった銘柄とします。</p>	
分配方針	毎年1、4、7、10月の6日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。基準価額水準や分配対象収益額を勘案し、委託会社が決定する額を付加して分配を行う場合があります。分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。（ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合もあります。）	

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

i 当ファンドの基準価額の変動率を他資産と比較することでファンドの値動き特性を捉えるのにお役立てください。



○上記は、2013年7月から2018年6月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

○各資産クラスの指数

- 日本株：TOPIX（配当込み）
- 先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）
- 新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）
- 日本国債：NOMURA-BPI（国債）
- 先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本）
- 新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- ・全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。
- ・ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。
- ・騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

当該投資信託の組入資産の内容

（2018年7月6日現在）

組入ファンド

（組入銘柄数：1銘柄）

ファンド名	第50期末 2018年7月6日
ジャパン株式インカム マザーファンド	99.5%

・比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

純資産等

項目	第49期末 2018年4月6日	第50期末 2018年7月6日
純資産総額	229,041,041円	223,972,883円
受益権口数	185,810,535口	186,353,058口
1万口当たり基準価額	12,327円	12,019円

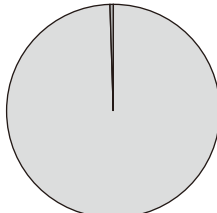
・当作成期間中（第49期～第50期）において
追加設定元本は 11,489,568円
同解約元本は 5,508,532円です。

種別構成等

【資産別配分】

コール・ローン等

0.5%



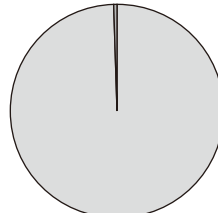
マザーファンド受益証券

99.5%

【国別配分】

その他

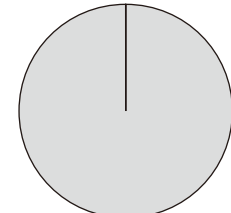
0.5%



日本

99.5%

【通貨別配分】



円

100.0%

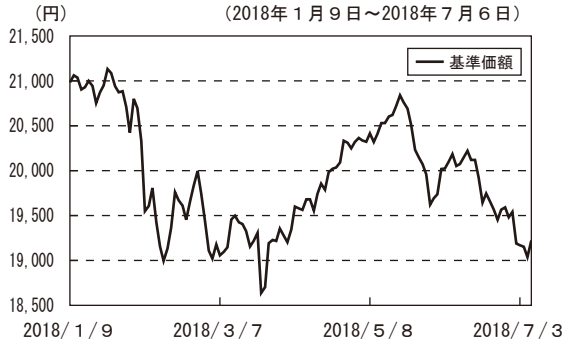
- ・比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。
- ・【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

組入上位ファンドの概要

ジャパン株式インカム マザーファンド

（2018年7月6日現在）

基準価額の推移



組入上位10銘柄

（組入銘柄数：54銘柄）

	銘柄	種類	国	業種/種別	比率
1	小松製作所	株式	日本	機械	2.1%
2	大和ハウス工業	株式	日本	建設業	2.0%
3	日本電気硝子	株式	日本	ガラス・土石製品	2.0%
4	LIXILグループ	株式	日本	金属製品	2.0%
5	三菱ケミカルホールディングス	株式	日本	化学	2.0%
6	NTN	株式	日本	機械	2.0%
7	トヨタ自動車	株式	日本	輸送用機器	2.0%
8	ヤマハ発動機	株式	日本	輸送用機器	2.0%
9	JSR	株式	日本	化学	2.0%
10	オンワードホールディングス	株式	日本	繊維製品	2.0%

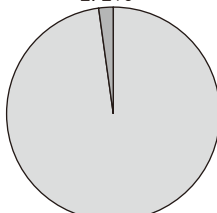
- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

種別構成等

【資産別配分】

コール・ローン等

2.2%

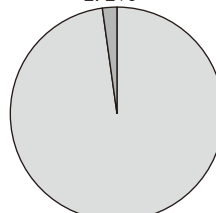


国内株式
97.8%

【国別配分】

その他

2.2%



日本
97.8%

【通貨別配分】



円
100.0%

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

1万口当たりの費用明細

（2018年1月10日～2018年7月6日）

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	0円	0.000%
(株式)	(0)	(0.000)
合計	0	0.000

期中の平均基準価額は、19,844円です。

（注）1万口当たりの費用明細は、組入れファンドの直近の決算期のもので、費用項目の概要については、2ページの注記をご参照ください。

（注）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注）各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

154015

指数に関して

○ファンドの参考指数である『TOPIX500配当込み指数』について

TOPIX500配当込み指数は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社（以下、「東証等」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。なお、当ファンドは、東証等により提供、保証又は販売されるものではなく、東証等は、当ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

○「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

TOPIX（配当込み）

TOPIX（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数（TOPIX）に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX（配当込み）に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の停止またはTOPIX（配当込み）の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI（国債）

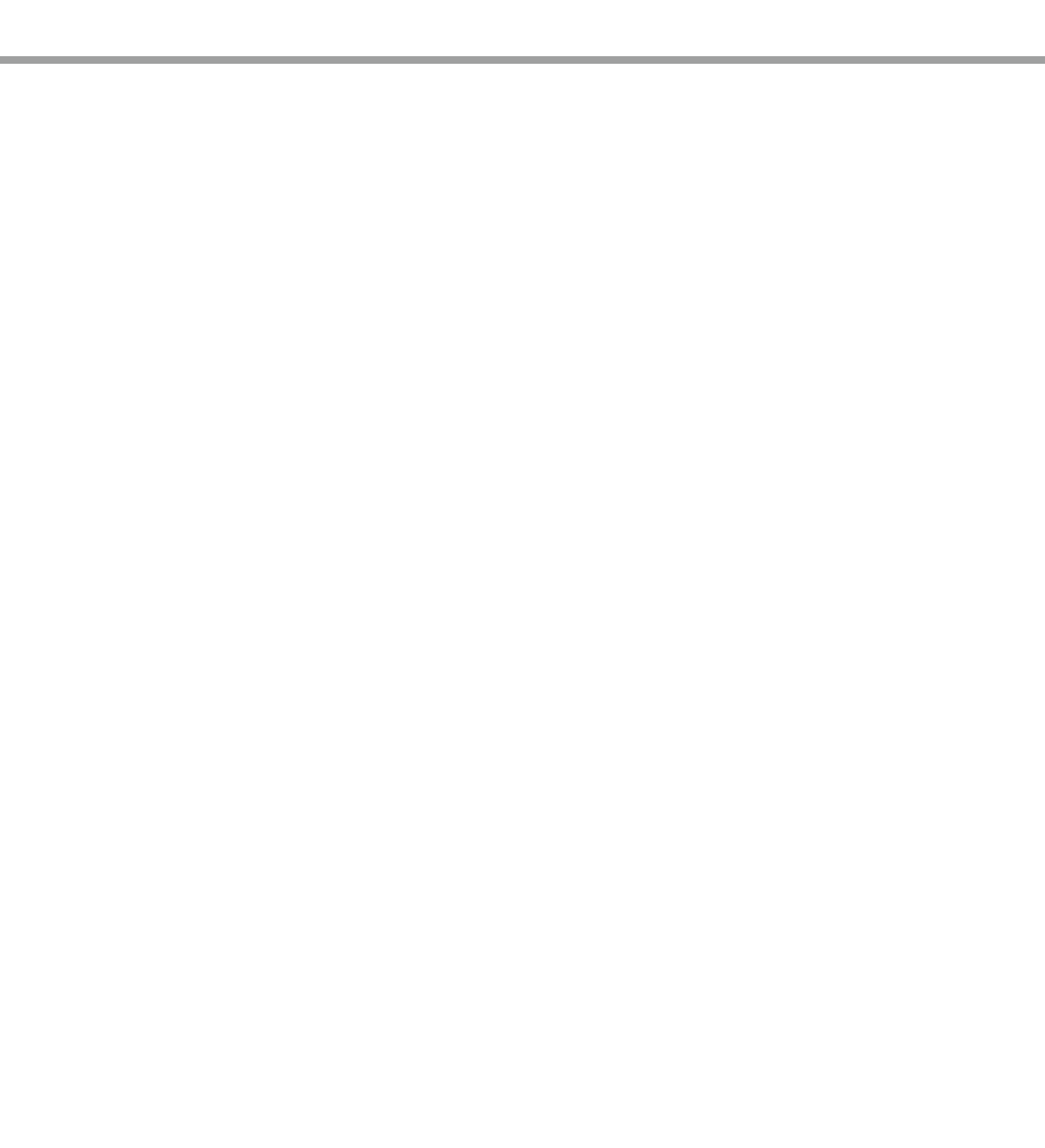
NOMURA-BPIとは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（国債）はそのサブインデックスです。わが国の国債で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI（国債）は野村證券株式会社の知的財産であり、運用成果等に関し、野村證券株式会社は一切関係ありません。

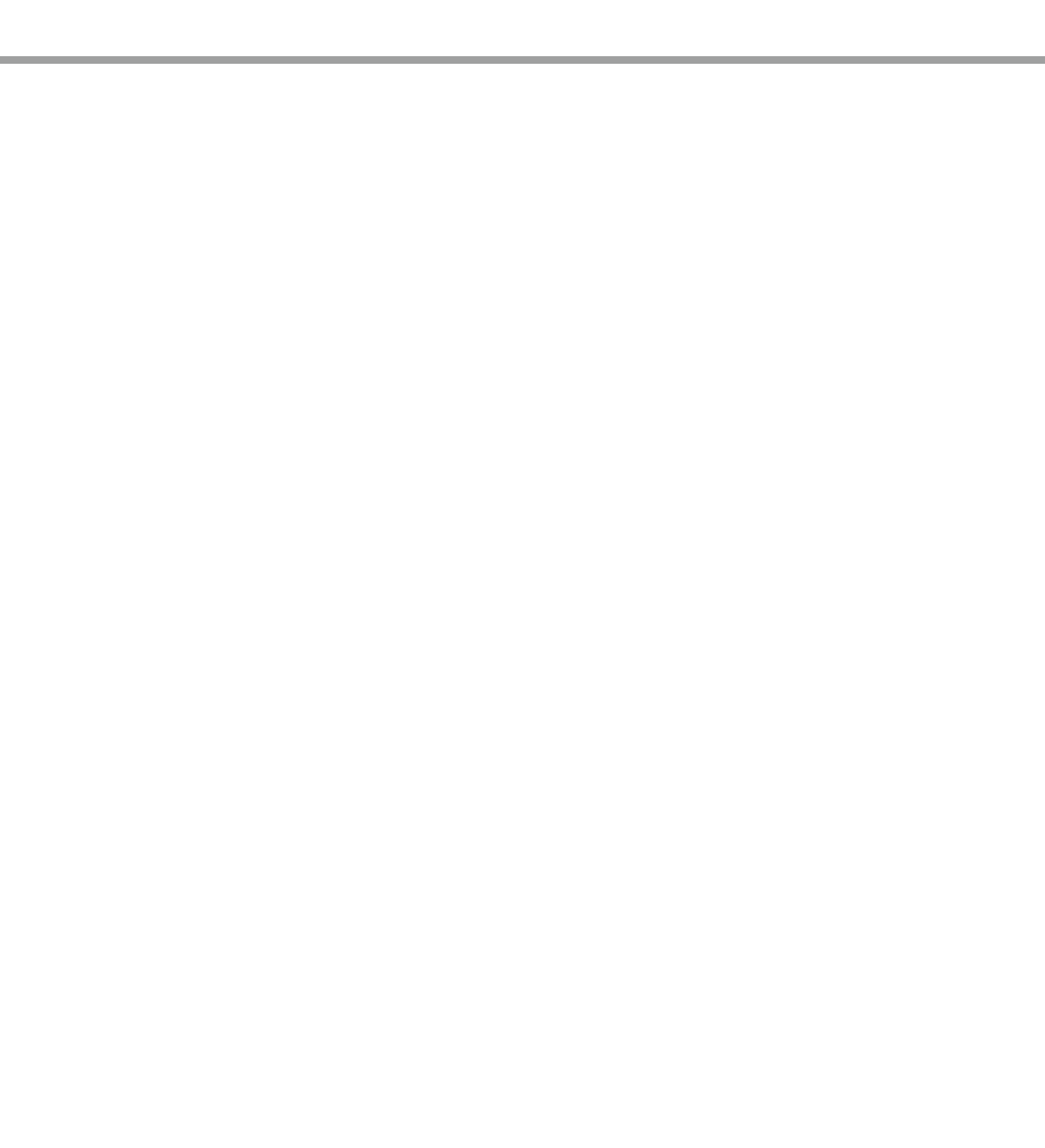
FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出して公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。







三菱UFJ国際投信